区政を聞く　一般質問（要旨）

詳しい内容は、会議録（11月下旬発行予定）をご覧ください。会議録は、区議会公式サイトや区政情報コーナー（区役所３階）、図書館などでご覧になれます。

日本共産党葛飾区議会議員団

自治体のこころをとりもどそう　16年間の現区政を問う

慈恵医大青戸病院の放射線ガン治療

問 区長名で出した放射線ガン治療の存続を願う要望書に対し、大学が回答しないまま着工する動きがある。慈恵医大青戸病院の建て替えは、区が公園用地として買収した土地を利用して行うものである。道義的にも区を無視して着工など許されず、改めて話し合うべきと思うがどうか。

答 昨年5月に慈恵大学理事長あてに継続の要望書を提出した以後、保健所としても要望活動を継続して行っている。今般、同病院では建て替え計画の近隣説明会を開催したと聞いている。建物本体の建設工事に伴う説明会であり、同病院の機能とは直接に関係ないものと理解しているが、未だ要望書に対する回答がない段階での近隣説明会であり、改めて回答を強く求めたところである。

青木区政の16年間

問 本区の特別養護老人ホームの待機者は、6月1日現在で1千713人であり、介護保険が始まった年の9月の待機者327人から5倍以上になっている。実情にあった建設計画を練り直すべきである。

答 第4期介護保険事業計画では、2施設、定員160人分の特別養護老人ホームの整備支援を計画している。この計画は、平成23年度の要介護認定者数の推計値に対する整備率等を踏まえて算出した必要数に、更に一定の数を上乗せして算定しており、十分実情に沿ったものと考えている。

問 格差と貧困を解消するためには、税や社会保障による所得再分配によって低所得者の生活を底上げすることが欠かせない。経済的給付を復活させるよう求める。

答 経済的給付事業は所得にかかわりなく年齢等の一定の要件のもと給付されるものであったため、復活によって低所得者の生活を底上げすることにつながるとは考えていない。

葛飾区役所

問 コンピュータ基幹システム開発委託費及び改修委託費は、実際には不具合が直っていなかったのに支出した。大学誘致のためにコンサルタント会社へ支払った調査委託費、理科大への53億円の支援も区民に説明がつかない。区の見解を伺う。

答 システム改修は契約事務を改めて行い履行確認のうえ、委託料の支払いを行った。システム調達ガイドラインを策定し、透明性・公平性の確保に万全を期している。大学に対する補助は、施設整備費補助として、区民・学識経験者で構成された大学誘致選定委員会において妥当の評価を得ている。

問 「未来を見据えた学校づくり」の統廃合計画は、30人学級に踏み出せば成り立たない計画である。少人数学級に踏み出すべきと思うがどうか。

答 一学級の人数については、義務教育標準法で40人を上限として都道府県が独自に定めることができるとされており、教員の人件費は国及び都道府県が負担することになっている。区独自で少人数学級を実施することについては、区独自の教員採用が必要となり、財政上の問題、任用上・身分上の問題があることから、現時点では考えていない。

問 就学援助の支給基準を生活保護基準の1.3倍に戻すべきと思うがどうか。

答 平成11年度に就学援助の基準を見直した際に、一時的にお金を必要とする新入学時の学用品費や修学旅行費などの一部費目については、費目認定制度を新設し、生活保護基準の1.2倍とした。現時点で基準を見直す考えはない。

※他の質問項目　同和事業の廃止、立石再開発　など

民主党葛飾区議会議員団

生活習慣病の予防と金町駅周辺のまちづくり

メニュー方式によるひとり暮らし高齢者等の安全化促進事業

問 今回は単年度事業だが、来年度以降も継続し、対象者の拡大も検討すべきと思うがいかがか。

答 今年度の実施結果を踏まえ、今後検討を行う。

※他の質問項目　申請件数と助成物品希望状況及び事業の周知

本区が実施している健康診断

問 特定健診・長寿健診は受診期間が限定されており受診しにくいという声を聞く。受診率向上のためにも実施期間を長くするなど受診者の利便性向上を図るべきではないか。

答 より一層の周知徹底はもとより、区民の声に耳を傾け、実施期間延長の検討を行うなど、利便性向上に努めていく。

※他の質問項目　保健指導受診人数及び受診率向上対策

金町駅周辺のまちづくり

問 東京理科大学の進出が平成25年4月に変更になったとはいえ、開学まで3年半の期間しかない。金町駅と新宿六丁目を結ぶ動線（歩道）の確保が課題となるが、東金町一丁目のまちづくりのプランを伺う。

答 短期的には、既存バス通りの有効利用のため植栽などの撤去や一方通行化などを行う。中長期的には、駅前広場空間の再構築や歩行空間整備の検討が必要である。大学開設の延期にかかわらず、歩行環境を早期に向上させる取り組みをこれまでどおり進めていく。

東金町一丁目

問 南北通路の完成や東京理科大学、フィットネスパークなどにより、金町駅から発着するバス路線の変更や増便について区の考えを伺う。

答 定期的にバス事業者と情報交換を行い、連携して区民の利便性向上に取り組む。また、地域の意見を聞きながら検討を進める。

問 高砂駅高架化工事完成後の金町線の列車の増発を、京成電鉄に積極的に要請すべきと思うがどうか。

答 高砂地区開発協議会や高砂地区連合町会と、列車の増発などの金町線のサービス水準の向上を京成電鉄に申し入れており、具体的な運行本数を早急に示すよう続けて要請していく。

※他の質問項目　（仮称）新宿六丁目公園の整備状況

放置自転車対策

問 京成電鉄の各駅では日曜日に放置自転車対策の巡回指導を行っていないため、自転車が溢れている駅もある。特に青砥駅入口付近広場における休日の撤去及び指導誘導について、どのように考えているのか伺う。

答 青砥駅南側に自転車駐車場を新設するなど、対策を強化する。また、地元商店会の協力を得たうえで、業務委託業者と協議して、月1回程度の休日撤去及び指導誘導が行えるようにしたい。

葛飾区議会公明党

金町線の高架化と柴又観光案内所の機能充実

平成21年度葛飾区一般会計第二次補正予算

問 補正予算で計上している多くの事業の財源は、自公政権が策定した緊急経済対策に基づく基金によるもので、民主党政権の誕生により、来年度以降、国の施策の継続が危惧されている。区の見解を問う。また、国の緊急経済対策事業費の見直しにより、今回の補正で計上した事業の継続が難しい場合は、どのような方針で臨むのか。

答 国の緊急経済対策の補助事業については、第二次補正予算案にも多くの事業を計上し、来年度以降も緊急雇用創出事業や消費者行政活性化基金事業などを計画している。予算執行停止となれば本区の財政に大きな影響を及ぼすが、地方公共団体が事業計画を申請して国から決定され、内示を受けた補助金を国側の事情により執行停止することは過去の例からしてあり得ないことだと考える。しかし、翌年度の計画事業などは、影響を受ける可能性が否定できないため、国の動きや東京都の動向を十分に注視し、適時適切な対応を図っていく。

※他の質問項目　環境関連事業の施策の計上　など

新型インフルエンザ対策

問 新型インフルエンザの流行が危惧されているが、本区の姿勢を問う。

答 学校や介護保険施設などに対する感染予防対策などの講習会の開催や広報紙・ホームページによる感染予防知識の普及啓発に努めている。患者やその家族向けに、区独自の自宅療養手引きを医療機関を通じて配布し、また、新型インフルエンザ相談センターで区民からの電話相談にも応じている。医療体制の確保は、葛飾区医師会や関係医療機関と協議を行い、妊婦の受診機会の確保など、区民の医療の確保を図っている。

※他の質問項目　新型インフルエンザ発生に伴う行動指針　など

東京理科大の開学が、平成25年になることに関連して

問 平成25年開学と1年間遅れることになったことで、本区の準備スケジュールにどのような影響がでると考えられるか。

答 1年間を有効活用し、東京理科大学から提案があった産学連携策や小中学校の授業への支援、科学教育センター事業との連携などの地域貢献策や東京理科大学とのさまざまな連携事業の仕組みの構築、また大学に隣接する（仮称）新宿六丁目公園の整備、金町駅北口地区や東金町一丁目地域などの周辺の街づくりの推進など、東京理科大学の誘致が真に区民のメリットとなるような取り組みを一層進める。

※他の質問項目　金町駅から東京理科大学までのアクセス道路整備　など

スクール・ニューディール構想

問 スクール・ニューディール構想に対する教育委員会の基本的な考え方を問う。

答 学校の耐震化は、全小中学校の耐震工事を完了し、学校のエコ化では、太陽光発電や風力発電の導入、校庭の芝生化などに取り組んでいる。ICT化環境の整備は、ICT化推進計画を策定し、情報教育の充実に向けて取り組んでいる。今後も、スクール・ニューディール構想を念頭に置き教育の充実に向けて取り組む。

※他の質問項目　区内中学校の武道場の整備計画　など

区民大学

問 来年の本格実施に向けて、現在の準備状況と理事会や運営委員会での議論の内容を問う。

答 理事会の立ち上げ、運営委員会の設置、愛称の募集、プレ事業の実施に取り組んでいる。理事会では、葛飾区の特徴を学ぶ「葛飾学」、地域活動の担い手を育成する「ひとづくり・まちづくり」、知識や教養を身につけるための「知識・教養百科」の3分野を中心に実施することを確認し、特に地域の担い手づくりや運営委員会のあり方などを議論した。

※他の質問項目　区民大学の拠点施設整備　など

金町線の高架化

問 金町線高架化に伴う高砂（金）4号踏切の改修で、踏切部分の線路の路盤面が現在より高くなることにより、踏切改修工事が生ずるとされることについて本区の考え方を問う。

答 道路面から見た4号踏切の高さを現状より上げないよう京成電鉄へ指導し、現在、4号踏切から柴又方面の線路を下げる工事が実施されている。また、バリアフリー化については、可能な限り、自転車や歩行者の通行に支障がないよう鉄道事業者に対して指導していく。

問 都市計画道路補助282号線と京成金町線の立体化は、京成本線立体化事業と一体的に行われるべきと思うがどうか。

答 本線の鉄道立体化に併せて、現在の金町線工事区間を含む都市計画道路補助282号線を跨ぐまでの区間についても、一体的に高架化を検討すべきと考えている。

※他の質問項目　高砂駅構内の立体化に伴う金町線の増便　など

柴又観光案内所の機能充実

問 柴又観光案内所伝統産業品アンテナショップ事業について、観光協会をはじめ、地元関係団体とはどのような協議・調整を行い、実施に至ったのか。

答 東京都緊急雇用創出補助事業を活用して、柴又観光案内所において、伝統産業品のPRの充実と観光地柴又の新たな魅力の付加による観光振興を図ることを目的としたアンテナショップ事業の補正予算案を提出した。この事業については、観光協会柴又支部や柴又まちなみ協議会など柴又の観光振興に取り組まれている団体と協議し、柴又の観光振興に資するものとの共通認識を得ている。

柴又駅前

問 柴又のお土産グッズについて、商品のグレードを高めるため、観光協会が評価制度を設けるなど検討してはどうか。

答 今後、柴又の土産品全般について、より一層の品質向上と確保に向けた方策について、観光協会による客観的な認証制度の創設への働きかけを含め、検討していく。

※他の質問項目　観光案内所の運営　など

自由民主党議員団

大学誘致と公共交通網の充実

大学誘致

問 進出学部・学科の決定を受け、今後どのように取り組んでいくのか。

答 進出学部・学科の特色を踏まえ、さまざまな連携事業の仕組みの構築など大学誘致が真に区民のメリットとなるよう取り組みを進める。また、大学誘致本部会に街づくりと産業など検討会を設置し、具体的な連携策について検討を進めている。

問 小中学校と都立高校に隣接する地域に進出するので、小中一貫教育を発展させ、高校と連続性のある教育システムを形成すべきだが、どうか。

答 都立高校への体験入学など中高の連携を進めているが、小中一貫教育の成果も踏まえ、今後研究していく。

問 技術交流など、大学と区内企業とが直接意見交換できる場の設置を支援していくべきと考えるが、どうか。

答 大学からも技術交流の意向が示されているので、提案の趣旨を踏まえ、大学と区内企業が直接に意見交換できる場の設置を検討する。

問 地域経済活性化の観点から、地方出身の学生が、区内で学生生活を送れるように工夫すべきだが、どうか。

答 住宅情報などの提供や、大学と一体となった公園の整備、周辺地域の街づくりなど、学生が住みたい、生活したいと感じる環境づくりのため、ソフト・ハード両面での取り組みを進め、学生が区内で充実した学生生活を送れるように努める。

公共交通網の充実

問 中川以南のバス路線網の更なる充実が必要と考えるが、見解を伺う。

答 バス路線網の基盤となる都市計画道路や交通広場の整備を積極的に進めている。特に新小岩駅周辺は、補助330号線や南北自由通路の整備、東西を結ぶ補助264号の整備など積極的に推進している。今後も交通事業者と定期的に協議を進め、バス路線の充実に向け、取り組んでいきたい。

問 青戸地区の慈恵医大病院の建て替えに伴い、小型バスの運行の実現が不可欠と考えるが、見解を伺う。

答 慈恵医大とともに、バス路線の導入に向けた条件整備の検討を進めており、具体化に向けて努力する。

問 JR小岩駅北口の再開発と連携することで、区内南東部のバス路線の充実につながると考えるが、どうか。

答 バス路線の充実のためには広域的な観点から取り組むことが重要であり、区内南東部を含め、誰もが使いやすい路線網が構築できるよう江戸川区と連携を図りながら研究を進める。

問 JR新小岩駅東北口交通広場の有効活用のため、浅草寿町や東京スカイツリーへのバス路線など観光的な視点も必要と考える。その検討に当たり、本区や墨田区の公共交通不便地区を経由するなどルートの工夫により実現性が高まると思うが、どうか。

答 本区でも水元公園循環バスなど観光的な視点の路線バスが運行されている。東京スカイツリーについては、バス事業者もさまざまなルートを検討しているので、引き続き努力する。

問 成田新高速鉄道の進捗状況を伺う。

答 来年度の開業に向けて順調に進捗していると聞いている。

問 成田新高速鉄道の一般特急を高砂駅に停車させるべきだが、どうか。

答 利便性の向上に寄与する一般特急の停車は必要と考えるので、京成電鉄に要望する。

京成高砂駅

問 京成本線の鉄道立体化の早期事業化の現状について伺う。

答 高砂車庫の取り扱いなどの課題解決を図ってきた。引き続き、駅周辺線計画などを多角的に検証し、鉄道立体化に向けて東京都など4者の連携を強化し、積極的な検討を行う。

介護保険の給付

問 福祉用具の購入に対する給付を1割負担方式に改正すべきだが、どうか。

答 現在、利用者が全額を支払った後に、公費負担分を返す方法を取っているが、1割分を事業者に支払う方式が実現できるよう進める。

地域経済対策と社会保障制度改革

地域経済対策

問 本区の地域経済支援策について、成果の総括と今後の課題・対策を伺う。

答 緊急資金融資や葛飾町工場物語の認定制度など、ここ数年の新規事業が一定の成果を上げている。今後は、企業の経営基盤強化のため、設備の近代化や新技術の開発などの支援や制度融資を充実する。

※他の質問項目　生活保護世帯の急増に対する今後の対策　など

問 国や都の補助金を活用した緊急雇用対策以外に区の独自施策はあるか。

答 緊急資金融資により雇用の安定を図り国の試行雇用奨励金に同額を上乗せ支給し、雇用機会の創出に努める。

※他の質問項目　本区の雇用実態の変化と雇用枠

緊急雇用対策

問 区民生活の危機に対し、必要な対策を積極的に行うべきだが、どのようにこの危機に対処するのか、伺う。

答 子育て応援特別手当支給事業など区民生活を守るための補正予算を計上した。また、今までの経営改革などで培ってきた財政対応能力を活用して行政サービスを積極的に推進する。

※他の質問項目　経済状況の認識

不妊治療費

問 不妊治療は、保険適用が原則と考えるが、国等への働きかけなどの実績を伺う。

答 体外受精といった特定不妊治療などは健康保険の適用外であり、特定不妊治療の保険適用について、国等への働きかけを行ったことはない。

問 区独自に不妊治療費の上乗せや一般不妊治療に対する支援策などを考えるべきと思うが、どうか。

答 特定不妊治療費助成の周知を徹底していくとともに、こころのケアに配慮した窓口での丁寧な対応など支援策を行っていく。

※他の質問項目　本区の不妊治療の潜在的需要　など

社会保障制度の変革

問 政権交代に伴う社会保障制度の変革により、区民生活の混乱が予想されるが、どのような準備をしているか。

答 制度変革の窓口となる本区は、事前準備を周到に進め、被保険者への十分な周知など区民生活が混乱しないよう対応する。

問 高齢者の負担感を軽くし、地域で安心して老後の生活ができるよう本区としてできることがあるが、どうか。

答 介護保険サービスの質の向上や24時間訪問介護支援の導入、家事援助を行う生活支援サービスなどを実施してきた。今後も、高齢者支援のより一層の充実を目指す。

※他の質問項目　後期高齢者医療制度廃止に対する本区の見解

公共施設の適正配置

問 施設の適正配置という課題の整理について、区の考えを伺う。

答 公共施設が地域コミュニティの核となるよう7つの生活圏域を踏まえ地域の需要や特性を勘案し、24年度末を目途に考え方をとりまとめる。

※他の質問項目　今後の公共施設全体の適正化の進め方

水元地域スポーツクラブとフィットネスパーク

問 クラブの設立について地元との調整が進められているが、クラブの運営を順調に行うための課題を伺う。

答 今年度中のクラブ設立を目指しているが、クラブハウスや運営スタッフの確保など多くの課題がある。当面クラブハウスを水元体育館に設置し、地域の小中学校などを優先的に利用できるよう確保に努める。今後も、クラブの安定的な運営のため積極的に支援する。

※他の質問項目　水元フィットネスパークの整備

区政を聞く　一般質問（要旨）　詳しい内容は、会議録（11月下旬発行予定）をご覧ください。会議録は、区議会公式サイトや区政情報コーナー（区役所３階）、図書館などでご覧になれます。